

令和5年度 第1回 学校運営協議会 議事録

令和5年6月22日（木）9:45～11:45

<参加者>

評議員 徳増 久子 様（障がい福祉サポートセンター「ゆうとうの風」センター長
相談支援事業所「風の路」所長）
尾崎 晴之 様（自治会長）
柴田 詩子 様（湖西市民生委員 主任児童委員）
内山さよこ 様（湖西市教育委員会学校教育課指導主事）
坂下 真一 様（浜名学園）杉田 洋一様代理
河合 梓 様（プライムアース EV エナジー株式会社）
菅沼 良枝 様（本校 PTA 会長）

学校関係者 校長、教頭、事務長、小部主事、中部主事、高部主事、教務主任

<議事録>

(1) 概要説明（教頭） 別紙資料

(2) 自己紹介

(3) 会長、副会長選出

会長 徳増 久子 様

副会長 尾崎 晴之 様 を選出し、全員の承認を得られた。

(4) 令和5年度 学校経営計画書（校長）

ア 説明（校長） 別紙資料 P. 9

イ 意見交換及び承認

F 委員：中学部3年生に子どもがいる。学校経営計画の関わりが生まれる授業づくりという項目を見て納得した。息子も読書指導をとおして、本を読むようになったし、生徒同士で行っている本の読み聞かせがとても効果があった。PTAの文化事業部でも、読み聞かせを行うことを楽しみにしている。家でも学校のようにやってくれるとうれしい。

E 委員：本社では事業所内保育所を持っている。2, 3年前から、PEVE スマイルで保育所の清掃などをしており、それがとても好評で、従業員も子どもとのつながりを楽しみにしている。PEVE スマイルの従業員は平均26歳で若い人が多い。今後、結婚、出産をしたら、その保育園に預けることなども想定している。

校長：周りの協力がなくては、とても幸せな結婚は成り立たない。卒業後の結婚、出産などにもサポートがあることはありがたい。

教頭：プライムアース様のように安心して預けられるところがあれば、子どもを持つことも可能だと思う。

B委員：毎月、新居中学校区の学校訪問をしている。また、「さわやか支援協議会」というケース会議をしており、発達障害のあるお子さんの家族が問題を抱えているケースがとても多い。先生方が保護者の支えになっていることが多いが、親同士の関わりも支えになると思う。親同士が関わられるような取り組みはあるのか。

校長：コロナ禍前は、例えばおやじの会でのバーベキューや奉仕作業などがあり、保護者同士が関わる機会があったが、最近は減少している。

F委員：スクールバスの送迎のバス停で、保護者同士で話をする人が多い。学校内は同じ学年の保護者と話すくらい。他学年の保護者とはなかなか密な関わりはない。

教頭：コロナ以降、学校行事が学部開催になるなどの変化もあった。

F委員：浜名だけでなく、地域の小学校でも同じ状況。子どもが小学校の支援級に入学したとき、先輩保護者がいろいろ情報をくれて、とても助かった。そのようなつながりも今は薄れていると感じる。

司会：保護者がつながりながら、互いに持っているもの（財産）をつないでいくことで、子どもたちが育てられていく。現在、相談支援事業をしていて感じることは、支援を受け入れられることは大切であるということ。支援を上手に活用して生活していくことは良いことだということ、学校生活の中で伝えてほしい。

C委員：地域と公立小中学校とのつながりでは、「交流籍」を活用した交流が再開していく。日程や内容など受け入れる側の要求が多いかもしれないが、浜名からの希望に応じられているか。

中主事：事前の打合せをとおして、どんなことができるか話し合って実施できている。生徒によってニーズが違うので、時間や活動などについては、担当で話し合い、より良い活動にしていきたい。相手校の生徒がどういう交流をしたいかも含め、お互いの学びになる活動にしたい。

小主事：子どもに合わせた交流をしたいと思っている。現状でも、どちらかがお願いをされてやっているという雰囲気はあまりないように感じる。

C委員：お互いに話し合っていてできているようで安心した。

校長：小中学校側の受け入れについて、正直なところはどうか。

C委員：ここ数年は、コロナ禍で交流ができていないので、それ以前のことについてだが、各校のコーディネーターが目的を全教員に示して、周知をしていた。交流すること自体は負担ではなかったが、各校の下ろし方によって認識に違いができてしまうという課題はあった。

司会：交流を希望する子どもがいて、たまたまその機会に接することができる子とできない子がいる。昨今は「世の中にはいろいろな人がいる」ということが当たり前になってきたので、交流は小中学校の子どもにとっても学びのチャンスになる。

D委員：以前は、9月の地域防災で自治会と学校と学園合同で炊き出しをしていた。また、関わりがもてると良い。学園利用者の高齢化、重度化で難しさもあるが、また一緒にできると良い。

A委員：自治会としても、避難所になっているので、地域の人にも周知して、従来のおりやっけていけると良い。

教頭 : 昨年は事前打合せまで進めていたが、コロナで直前に中止になった。今年はぜひやっていききたい。

(5) 校内参観 校内を 30 分ほど参観

『地域活動（共同・協同・協働）』（別紙 1）

各学部からのリクエスト

小学部：地域の方に学校に来ていただき、子どもたちと遊ぶような活動をしていきたい。
音楽や竹とんぼなど昔の遊びなどができると良い。

中学部：今年度も地域の方との奉仕作業（大倉戸海岸清掃）を 10 月 3 日に実施予定。
3 学期に音楽で鑑賞の授業を実施するので、音楽の演奏などもしていただきたい。

高等部：農耕班の夏野菜を納品させていただいたり、近隣の農家さんと連携して一緒に作業させていただいたりしたい。また、農地の借用もお願いできるとありがたい。

司会 : 農地の件、以前の PTA 会長さんが農家さんだったことがあるので、協力を依頼できるのでは。給食の食材を仕入れている農家さんなど、日頃から理解をいただいている方はどうか。

感想・御意見

F 委員：みんなが挨拶をしてくれて、一緒に楽しもうという雰囲気が良かった。

E 委員：高等部の現場実習の受け入れをしているが、高等部 1 年生から実習に来て良いのでは。中学部の生徒も保護者と一緒に見学に来るなど企画できると良い。

C 委員：昨年度、就学支援で関わりのあった子が、落ち着いて過ごしていて安心した。挨拶も良くしてくれて、安心して過ごしている様子が分かった。

D 委員：学園でも軽作業をしているが、生徒が集中して意欲的にやっている姿に感心した。

B 委員：みんなよい笑顔で、親しみをもって挨拶をしてくれて良かった。農耕班について、高齢者が買い物に行けない場合、遠鉄では出張サービスをして販売をしている。そのような形が、学校でもできると良いのではないか。

司会 : 高等部の授業で、タブレットを使って、調べもの学習をしていて良かった。これからは、いろいろな ICT 機器を使いこなせる人を育てることは大切。保護者からは、タブレット使用をどう制限したら良いかという話題がよく出る。使いこなすことと、どうやって良くないものから身を守るか。また、依存に対してある程度は自分でコントロールできるが、ブレーキの弱さもある。活用とブレーキを学校時代に身に付けられると良い。

(6) その他（教頭） 次回は、11 月 10 日（金）第 2 回学校運営協議会

2 月 6 日（火）第 3 回学校運営協議会 開催予定